

視察研修報告書	
名前 (伊藤 佐奈美) 提出日 (2022 年 10 月 19 日)	
視察日	2022 年 10 月 17 日 ~ 10 月 18 日
訪問先	福祉型専攻科・大学 ユーススコラ鹿児島
住所	鹿児島市吉野町 4386-1
視察日程	10 月 17 日(月)14 時 40 分中部国際空港発 前泊 10 月 18 日 (火) 10 時 00 分視察先 (ユーススコラ鹿児島) 着 <u>10 時 00 分 午前の活動視察</u> スコラタイム (からだづくり)、組ごとの活動 : 調理・衣食住 12 時 00 分 <昼食・休憩> <u>13 時 00 分 午後の活動視察</u> 社会体験、午前活動継続等 <u>13 時 30 分 学園長・理事 (元学園長) との懇談</u> 15 時 00 分 視察先発
対応者	学園長 西園 健三 氏、理事・元学園長 米衛 政光 氏
視察内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「ユーススコラ鹿児島」の施設、活動視察 現地で実際に見学、参観し、学生や職員の活動の様子や取組の具体的な内容を知ることができた。 ・学園長、元学園長との懇談から、設立の趣旨・めざすことを聞き取るとともに、取組の工夫、苦勞、課題等について意見交換を行った。
学んだこと	<p>特別支援学校卒業後の教育年限を延長し、専攻科・大学として障害青年の学びの場を保障することを目的とされているが、既存の福祉制度を活用し、自立訓練(生活訓練)事業、就労移行支援事業、生活介護事業の事業所としての運営が行われていた。サービスの運用を柔軟に組み替えることにより、4年間の教育期間を設定し、自立訓練事業に参加している学生も4年間学ぶことができるように工夫がされているとのことであった。</p> <p>高等部卒業後の不安定な青年期をじっくりゆっくり学ぶ期間として、社会に出る前のステップアップの期間として捉え、学校卒業時に解決できていない問題を含め、自分自身を育てる時期と捉えて取り組まれることに意義を感じた。</p>
その他	青年期教育の期間を4年と区切ることもライフステージの中で重要な意味があり、その後を支える仕組みを持つ麦の芽福祉会の組織があって、そのことがさらに有効に働いていると感じられた。

<視察先 2> 福祉型専攻科ジョイアスクールつなぎ

視察研修報告書	
名前 (志村 美和) 提出日 (令和 4 年 11 月 7 日)	
視察日	令和4年 11 月 6 日 ~ 11 月 7 日
訪問先	福祉型専攻科ジョイアスクールつなぎ
住所	奈良市南京終町 7 丁目 540-5
視察日程	9:30~11:30 施設概要説明、施設内見学 11:30~13:00 つながりカフェで昼食 13:00~15:00 パワーポイントによる施設の取り組み、紹介
対応者	代表 阪東俊忠、事務局長
視察内容	代表からジョイアスクールつなぎの話(2年間)、その後のかち創造科の話(2年間)、3回生、4回生が実習するつながりカフェ等の概要を聴く。実際の活動(授業)風景を見学、直接学生との会話、支援員さんとの会話をしながら施設内を見学した。階下には幼児・児童が通う児童発達支援、放課後デイ、相談支援事業所とびらがあり、併せて見学した。昼食は、学生が実習を行うつながりカフェに行き、実際に実習中の学生を見ることができた。
学んだこと	特別支援学校卒業後このジョイアスクールつなぎでまずは2年間、学生は解放され、自分と向き合う時期となる。「自分崩し」から「自分づくり」へ。「ばかげたことをたくさんする」中でも1回生は数人で地元紹介をテーマに研究、発表する、2回生は個人でテーマを決め発表する。授業をさぼりたいときは「さぼりたい」手続きを理由を書いて提出する等、この2年間で「自己決定」「自己選択」の力を得ていく。3回生、4回生の時期は、モラトリアムの時期として、自立訓練の延長期間、あるいは就労移行支援の開始の時期として社会へ出るための学びをする。ここの講師や支援員はとにかく「待つ」「指導」ではなく、「しかけ」をして学生たちの主体的な力をつけている。こうして4年間じっくり学んでからそれぞれに合った就労先へと進んでいくことが分かった。スクールの紹介で流れた映像に学生たちが協働で作ったばかげた面白動画があったが、見ているこちらにも思わず笑ってしまうようなことをしてまさに「青春」だなあと感じた。
その他	ジョイアスクールつなぎで働いている人を見ていて、皆楽しそうで、「ここで働きたい」と言っつながってきた人ばかりだと伺った。「指導者」という姿は全くなかった。しかし、「学校」風景だった。これまで彼らが受けてきた学校教育では指導的で自分で選択したり、決めたりすることはなく、ここでは自分が決め、選択するからこそ自分に向き合い、理解し、ゆっくり時間をかけて社会に出ていく準備ができるのであろう。

<視察先3> 名古屋市委託事業・障がい者青年学級「汽車ポッポ」
(代表) 河合賢治さん

(会場) 瑞穂生涯学習センター (名古屋市瑞穂区惣作町 2-27-3)

* 駐車場あります (17 台分)

<日 時> 2022年11月20日 (日) 9:30~12:30

◆最寄り駅◆

- ・地下鉄名城線「妙音通」駅 1 番出口 徒歩 10 分
- ・名鉄「堀田」駅 (特急・快速特急は通過) 東口 徒歩 10 分

これまで公民館 (生涯学習センターなど) において、障害者を対象に「障害者青年学級」や講座などを開催してきた自治体は、全国で東京都の市区と名古屋市 (民間委託事業) だけです。

今年度の県内視察研修先は、名古屋市の委託事業先として 38 年間にわたって取り組んできている「障がい者青年学級・汽車ぽっぽ」(毎月 1 回開催) です。昨年度の「実践研修講座」では、講師としてお話いただきました。

学校卒業後の障害者の「青年学級」とは何か、どんな活動をしているのか、彼らの学びの姿や、支援のあり方について、実際の活動に触れて学びます。

<参加者>

服部 浩子(春日井市手をつなぐ育成会会長)
横井 よしみ(春日井市子ども政策課主任)
若杉 尚代 (春日井市文化・生涯学習課主査)
長谷川 誠 (春日井市味美ふれあいセンター所長)
大矢 有香子(春日井市立坂下公民館館長)
寺谷 直輝 (大同大学等非常勤講師)
志村 美和 (NPO 法人春日井子どもサポート KIDS COLOR 理事長)
田中 良三 (本事業コーディネーター、愛知県立大学名誉教授)

<研修内容>

- 9時30分 現地集合 (名古屋市瑞穂生涯学習センター)
- 10時00分 青年学級開始 活動内容: ボッチャの取り組み
- 12時00分 青年学級終了
- 12時00分 河合さん (「汽車ぽっぽ」代表) と懇談
- 12時30分 現地解散

《参考文献》

河合賢治 「名古屋市・障がい者青年学級—瑞穂青年学級 38 年のあゆみ」 『月刊社会教育』 2021.8

視察研修報告書	
名前（横井 としみ） 提出日（2022年11月21日）	
視察日	2022年11月20日（日）
訪問先	名古屋市委託事業・障がい者青年学級「汽車ポッポ」 会場：名古屋市瑞穂生涯学習センター
住所	名古屋市瑞穂区惣作町2-27-3
視察日程	9:30 視察研修説明、連絡 10:00～12:00 青年学級視察 12:00～12:30 「汽車ポッポ」代表・河合氏との懇談
対応者	河合賢治氏
視察内容	・ポッチャの取り組みの実際 ・「汽車ポッポ」代表と懇談会
学んだこと	<p>障がい者青年学級の参加者と一緒に、BOCCIAを体験した。ルールも難しくなく、気軽にできるものだった。試合の回数が多かったため、みんなのやり方がたくさん見学できたので、自分が投げるときにとっても参考になりました。児童館や地域の行事でも取り入れて、みんなで楽しめると思いました。</p> <p>障がい者の付き添いのヘルパーさんも行事に参加していることを知り、協力的だと思いました。</p> <p>ボランティアで参加する人も、会費を払い参加して楽しんでいることを知りました。</p> <p>優勝したら景品がもらえて、参加賞もあったので、みんなうれしそうに受け取っていた。</p>
その他	

<h2 style="margin: 0;">視察研修報告書</h2> <p style="margin: 0; text-align: right;">名前（若杉 尚代） 提出日（2022年12月2日）</p>	
視察日	2022年11月20日(日)
訪問先	名古屋市委託事業・障がい者青年学級「汽車ポッポ」 会場:名古屋瑞穂生涯学習センター
住所	名古屋瑞穂区惣作町2-27-3
視察日程	9:30 視察研修説明、連絡 10:00～12:00 青年学級視察 12:00～12:30 「汽車ポッポ」代表・河合氏との懇談
対応者	河合賢治氏
視察内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ポッチャ講座への参加 ・「汽車ポッポ」代表との懇談会
学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ポッチャについて、ルールも簡単で障がいの有無に関わらず楽しむことができた。 ・毎月の案内の作成や、事業実施後に参加したボランティアの方のコメントをまとめた「通信」を作成し郵送するなど、細やかな対応をされており、継続して参加してもらえる工夫の一つだと感じた。 ・懇談時に、会員になりたい人への周知方法として、支援学校でチラシの配布を行っている聞き、手元に届く情報の発信が必要で、学校との連携は重要であると感じた。
その他	

<h2 style="margin: 0;">視察研修報告書</h2> <p style="margin: 0;">名前（ 大矢有香子 ）</p> <p style="margin: 0;">提出日（2022年11月22日）</p>	
視察日	2022年 11月 20日(日)
訪問先	名古屋市委託事業・障がい者青年学級「汽車ポッポ」 会場:名古屋市瑞穂生涯学習センター
住所	名古屋市瑞穂区惣作町2-27-3
視察日程	9:30 視察研修説明、連絡 10:00～12:00 青年学級視察 12:00～12:30 「汽車ポッポ」代表・河合氏との懇談
対応者	河合賢治氏
視察内容	青年障がい者に、38年間学習の場を提供する活動をされている名古屋市の民間団体「汽車ポッポ」さんの活動の一部であるボッチャを、実際に活動している中に参加させていただくとともに、代表である河合氏と懇談し、春日井市での青年学級を模索する。
学んだこと	きめ細かな対応をされていた。38年間の活動の深さを感じた。 その経験則が、障がい者に安心を与え、楽しい学習の場となっていると思った。 障がいの方と一緒にボッチャを行い、活動されている方々の作られる雰囲気的大事であると学びました。
その他	

<h2 style="margin: 0;">視察研修報告書</h2> <p style="margin: 0;">名前（長谷川 誠）</p> <p style="margin: 0;">提出日（2022年12月5日）</p>	
視察日	2022年11月20日(日)
訪問先	名古屋市委託事業・障がい者青年学級「汽車ポッポ」 会場:名古屋市瑞穂生涯学習センター
住所	名古屋市瑞穂区惣作町2-27-3
視察日程	9:30 視察研修説明、連絡 10:00～12:00 青年学級視察 12:00～12:30 「汽車ポッポ」代表・河合氏との懇談
対応者	河合賢治氏
視察内容	障がい者青年学級「汽車ポッポ」の活動(ボッチャ大会)の運営の方法
学んだこと	<p>ボランティアサークルが長年の活動実績を基に、きめ細かなイベントプログラム、ボランティア養成講座の運営方法を確立させていました。</p> <p>やはり、業務の縄張りに縛られる行政よりも、民間の活動団体が中核となり、活動拠点を決め、自由に参加者を集める方法がスムーズに運営できると感じました。そこに口コミ等で関心を持った参加者・ボランティアが徐々に増えていく形が良いのではないかと感じました。活動団体の皆様のご苦労は大変だと思います。それをいかに行政がバックアップできるかが重要と考えます。</p> <p>たまたま今回実施されていたボッチャについては、広い場所もいらず、ルールも簡単で道具さえあればすぐにできるため、市の施設でも手軽に企画できると感じました。</p>
その他	

<h2 style="margin: 0;">視察研修報告書</h2> <p style="margin: 0;">名前（ 服部浩子 ）</p> <p style="margin: 0;">提出日（2022年11月25日）</p>	
視察日	2022年11月20日(日)
訪問先	名古屋市委託事業・障がい者青年学級「汽車ポッポ」 会場：名古屋市瑞穂生涯学習センター
住所	名古屋市瑞穂区惣作町2-27-3
視察日程	9:30 視察研修説明、連絡 10:00～12:00 青年学級視察 12:00～12:30 「汽車ポッポ」代表・河合氏との懇談
対応者	河合賢治氏
視察内容	<p>視察当日はボッチャ大会の日でした。4チームに分かれ総当たり戦を行い視察に参加した者もそれぞれ人数の足りないチームに入り、参加させていただきました。ルールの説明後、ボールを投げる練習をして試合開始。楽しく試合に参加し、最後に優勝チームと視察チームの試合を行いました。優勝チームにはバッジ、参加者全員に景品が配られました。</p> <p>机の片付けを行い、代表の河合氏と懇談。懇談中、少し離れた場所では一部の学級生とボランティアさんとで反省会を行っていました。</p>
学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> ・企画、準備、実施、反省と順をおって必ず行い、初めての行事はリハーサル等を行うなどとても丁寧に運営されている。 ・例会に学級生の一部が自主的に参加し、毎月発行の行事報告や案内の印刷、準備物の製作作業などを楽しめていること。 ・ボランティアの方も参加費を払って行事に参加している。また、移動支援で学級生と一緒にきたヘルパーさんもそのまま参加している。誰にとっても有意義な場所となっている。 ・青年学級という名称のため、年齢制限があること。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルスポーツ「ボッチャ」は初めての人でも思わぬ好投があり、最後まで勝敗がわからないところが面白い。 ・表彰後、みんなが点数表の前に寄っていて見えなかったが、点数が間違っていると指摘した学級生がいて、そういうゆるい感じがみんなの居心地のいい場所になっていると感じた。

◇ コンファレンス事業 ◇

「地域共生社会を目指す障害者の生涯学習プログラムの

開発・推進コンファレンス in 春日井」

7. コンファレンス

令和4年度の事業成果報告会として令和4年12月17日（土）13:00～16:00の日程で春日井市の文化フォーラム視聴覚ホールにて「地域共生社会を目指す障害者の生涯学習プログラム開発・推進コンファレンス in 春日井」を開催した。

当日は、会場での対面と YouTube 配信とのハイブリッド方式で行われ、当日のプログラム集については、オンライン参加の人にはあらかじめ郵送した。

コンファレンス参加者は以下の通り

春日井市職員・公民館ふれあいセンター、社会福祉協議会等職員	29名
連携協議会委員及び事務局員	12名
会場参加者	21名
オンライン参加者	15名

◇ 当日の進行 ◇

司会は、名古屋女子大学准教授の堀部要子（本事業事務局員）が務め、開会のあいさつを本事業代表の NPO 法人春日井子どもサポート KIDS COLOR 代表志村美和、続いて春日井市長の石黒直樹が行った。

はじめに、＜成果報告と検討＞とし、「障害者の生涯学習実践研究講座」について志村美和から「文化・スポーツ講座」から①春日井インクルーシブアートキャラバンについては伊藤佐奈美から、②私だけの書 TIME については安達柏亭から、③春日井ドリームサッカーフェスティバルについては伊藤貴治から報告があった。

それぞれの報告の後、文化・スポーツ講座に参加した青年及び保護者から講座に参加した感想を述べてもらった。



～以下感想文～

インクルーシブアートキャラバンに参加して

私は青色が好きなので、青をたくさんし、使用し、後、花と月が好きなので、蒼い月と月下美人を書きました。幻想的なファンタジーが大好きなので作品にしました。背景を紺色（ネイビー）の色を塗るのが大変でした。黒と青を混ぜたのをたくさん使って縫って服が汚れそうになるぐらいたくさん塗るのが大変でした。濃さが薄くなったり、濃すぎたりして調整するのが大変でした。

ボランティアの人がお手伝いに入ってくれて、年齢が近い人たちがたくさんいて話しやすかったです。あと、いろんな人たちがたくさん私の絵や色をほめてくれてすごくうれしかったです。私の作品をたくさんの人に褒められてすごくうれしかったです。

切り絵と思い込んでいたので、まさか絵を描くとは思わず、何も考えていなかったのととりあえず私の好きなものを詰め込みたいと思い、蒼い月と月下美人、そして真夜中をイメージした暗い青を作品にし、意外と良い作品ができて自分でもびっくりしました。自分が考えたとは思えないほど上出来でした。

平井 遥

私だけの書 TIME に参加して

私は友達のお母さんに誘われて「私だけのショータイム」に参加しました。

1 回目は自分の名前を書いて、2 回目はうちわに好きな字を書きました。私は「夢」と書きました。家に帰ってから、もうひとつのうちわに「向日葵」と書いて裏に絵も描きました。半紙以外に筆で書いたことがなかったのでとても楽しかったです。

戸田久美子

私は「私だけのショータイム」に友達と一緒に参加しました。

学校で習字を習った時は墨汁ぼくじゅうを使いましたが、初めて墨をすりしました。

ちょうどいい濃さにするのは難しかったです。

先生に字をほめてもらってうれしかったです。

今は書道を習いに行きたいと思っています。

服部笑子

サッカー講座に参加して

始めまして。藤谷日菜と申します。本日は、お世話になりましたサッカー教室での息子の様子をお伝えしたいと思います。私の息子は自閉症と言う病名が年中の時に今の愛知県医療療育総合センター中央病院で診断されました。小学校は地域の学校の支援クラスを無事卒業いたしまして中学校は1年間だけ地域の中学校へ行かせていただきました。2年目からは、春日台特別支援学校の方でお世話になりました。今は、ワーカー鷹来山で月曜日から金曜日の朝9時～夕方16時まで主にパン作りやねじまわし等の軽作業をさせていただいております。こちらの企画を知ったのは、私がボランティア活動に興味があり、社会福祉協議会へ行かせていただいている時に見つけたパンフレットの習字の教室へ参加したのがきっかけでした。その続きで、先生方がたくみが体を動かすことが好きなのを察してくださり、サッカー教室へのお誘いをいただきサッカー教室を始めてみることになりました。サッカー教室での体験をさせていただけたことにより、たくみのチャレンジ精神にまた明かりがもったようになり、家でも「やりたい」「やります」と言う言葉が増えて、家でのお手伝いも率先して行ってくれるようになりました。また、サッカーでその日にクリアできなかったことを家でも少しでもクリアできるようになりたかったのか、小さめのボールを持ってきて練習しております。見通しも少しずつですが就くようになり、次の日曜日はサッカー教室だよね、と息子の方から話すようになりました。それだけではなく、この習字の教室、サッカーの教室の先生方や参加されている方、ご父兄様、学生のボランティア様の温かさに触れて改めて人間の人の付き合い方の大切さを私自身も再確認させていただいたような気がしております。このような機会を与えていただけたことに本当に感謝しております。今後もとても楽しく過ごせる機会になっているので、お誘いください。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

藤谷日菜



次に、「地域共生社会と障害者生涯学習支援を考える」と題し、ラウンドテーブルを行った。コーディネーターを本事業のコーディネーターでもある愛知県立大学名誉教授の田中良三氏にお願いし、文部科学省障害者学習支援推進室室長鈴木規子氏、本事業の連携協議会委員長の中部大学現代教育学部教授伊藤佐奈美氏、春日井市文化スポーツ部長上田敦氏、名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授辻浩氏の4名から提案があった。

<ラウンドテーブル>

“地域共生社会と障害者生涯学習支援を考える”

<コーディネーター> 田中良三（愛知県立大学名誉教授）

<趣旨>

ラウンドテーブルでは、文部科学省障害者学習支援推進室室長の鈴木規子さん、中部大学現代教育学部教授の伊藤佐奈美さん、春日井市文化スポーツ部長の上田敦さん、名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授の辻浩さんの4人の方に登場していただき、それぞれの立場から、テーマ「地域共生社会と障害者生涯学習支援を考える」にアプローチしていただきます。

鈴木さんには、国の障害者障害学習支援政策についてお話しいたきます。

伊藤佐奈美さんには、春日井市の文科省の委託事業への中部大学としての関わりについてお話しいたきます。

上田さんには、いま春日井市が取り組んでいる委託事業を、市としてどう受けとめ、今後どのように取り組んでいくのかについてお話しいたきます。

辻さんには、社会教育・生涯学習研究者として、障害者学習支援をどう捉えるのかについてお話しいたきます。

みなさんにそれぞれ15分間話していただき、その後、会場のみなさんからご質問をいただきます。そして、質問に該当する登壇者のみなさんにお答えいただきます。

最後に、私から少々お時間をいただいてまとめをします。

このラウンドテーブルでは、文部科学省の実践研究委託事業終了後も、春日井市で、学校卒業後の障害者の文化・芸術、スポーツ教養など生涯にわたる学び支援にどう取り組んでいったら良いのかについて、それぞれの立場からご意見をいただき、また、ご参加いただいた皆さんと共に考えたいと思います。

地域共生社会を目指す障害者の生涯学習プログラム開発・推進コンファレンスin春日井

障害者の生涯を通じた 多様な学習活動の充実について

令和4年12月17日



文部科学省
総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課
障害者学習支援推進室
室長 鈴木 規子

障害者の生涯学習をめぐる社会情勢

平成26年 「障害者権利条約」批准

→ 第24条「生涯学習の機会の確保」

平成28年 「障害者差別解消法」の施行

→ 国・自治体における合理的配慮の義務化

平成29年4月

大臣メッセージ「特別支援教育の生涯学習化に向けて」

平成29年度

生涯学習政策局(現 総合教育政策局)に

「障害者学習支援推進室」を新設

障害者の生涯学習に関する現状と課題

障害者の学校卒業後の状況

- 特別支援学校卒業生の高等教育機関への進学率は約**2.2%**
特に、卒業生の9割近くを占める知的障害者は約**0.5%**に留まる
→「学校卒業後、学びや交流の場はどうなってしまうのか、とても不安に感じている」「障害者はその特性から、ゆっくりと成長するのに、学び続けることができない」といった声も
- 約**92%**の障害者が就職又は障害福祉サービスなどに進む

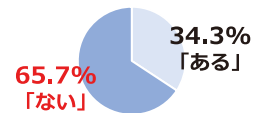
障害者本人の意識、ニーズ ※平成30年度 障害者本人の意識等調査の結果より

- 「障害者の学習機会が充実されることは重要だと思う」 →**81.1%**
一方で…「一緒に学習する友人、仲間がいない」 →**71.7%**
「学ぼうとする障害者に対する社会の理解がない」 →**66.3%**
「知りたいことを学ぶための場や学習プログラムが身近にない」 →**67.2%**

【公民館等が障害者の学習活動の支援に関わった経験の有無】



【生涯学習の機会について】



※平成30年度調査研究より

- 課題**
- ① 障害者の多様な社会参加を支える学習活動の充実とともに進学が困難な移行期の知的障害者等も**学び続けることができる生涯学習機会が重要**
 - ② 障害者の学習支援の経験のある公民館等が**14.5%**に留まるように、地方公共団体には**ノウハウや実施体制がない**
 - ③ 先進的に取り組むNPOや大学等による生涯学習プログラムの**モデル化が進展しているが、民間団体は予算等の資源不足から取組の持続性や成果の波及力に課題がある**

- 対応**
- ・ 地方公共団体が民間団体と連携し、**持続可能な事業実施体制を整備**する
 - ・ 発達段階や障害種等に応じた**学習プログラムの開発**やその**担い手を育成**する

有識者会議最終報告のポイント

「障害者の生涯学習の推進方策について—誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して—（報告）」平成31年3月

学校卒業後の障害者が学ぶ場が十分でない

目指す方向性

- 誰もが、障害の有無にかかわらず**共に学び、生きる共生社会の実現**
- **障害者の主体的な学びの重視**、個性や得意分野を生かした**社会参加の実現**

取り組むべき施策

- ① 学校教育から卒業後における学びへの**円滑な移行**
- ② **多様な学びの場づくり**
- ③ 福祉、労働等の分野の取組と学びの**連携の強化**
- ④ 障害者の生涯学習を推進するための**基盤の整備**

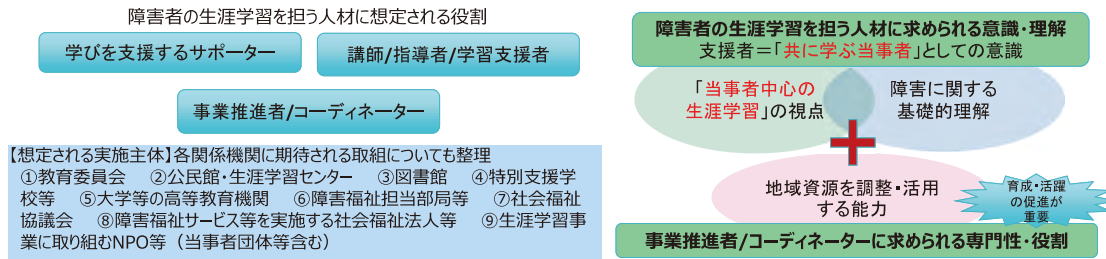
障害者の生涯学習の推進を担う人材育成の在り方検討会 議論のまとめ (R4.3.25) 概要



- 現状と課題**
- ✓ 文部科学省では「誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会」を目指して障害者の生涯学習環境の整備等を実施。
 - ✓ 我が国全体の高等教育機関への進学率が8割を超える中、障害者の進学率は約2.2%（知的障害者に限れば約0.5%）に留まる。
 - ✓ 障害者の学習ニーズに対して、提供される生涯学習の場やプログラムの量・質ともに不十分な状況で、特にノウハウや経験を有する人材が不足。
- 検討事項**
- 今後、障害者の生涯学習を推進するために必要な、（1）新たな取組を開始するにあたり必要な視点や手法、（2）障害者の生涯学習を担う人材が身に着けるべき専門性や役割の整理、（3）人材を育成・確保するための方策、（4）我が国における取組を更に展開・発展させていくために考えられる方策について検討整理。

1. 「共生社会のマナビ～障害者の生涯学習支援入門ガイド・事例集～」の作成

2. 障害者の生涯学習推進を担う人材が身に着けるべき専門性や役割の整理



3. 障害者の生涯学習推進を担う人材の育成・活躍を促進するための方策

- ① 障害者の生涯学習の研修機会の充実**
 - 社会教育関係職員の研修の充実、調査研究等を期待
- ② 社会教育主事講習の学修内容の充実**
 - 学習課題として「障害者の生涯学習」の位置づけを検討
- ③ 社会教育士制度等による担い手育成**
 - 福祉関係者への障害者の生涯学習への理解促進・連携
- ④ 特別支援学校等教員に期待される役割**
 - 社会教育士称号取得の促進
 - 在校生、卒業生等を支える地域ネットワーク形成
- ⑤ 大学の社会教育主事養成課程の充実**
 - 学生等の障害者の生涯学習活動への参加促進
 - 学生が障害者と共に学ぶ機会の充実
- ⑥ 障害者本人が担い手になる仕組み**
 - 当事者も企画運営等の担い手になる仕組みづくり
 - 障害者の社会教育士称号や司書資格取得を促進

4. 今後、障害者の生涯学習に関して国に求められる取組

学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究

令和4年度予算額 134百万円
(前年度予算額 116百万円)



事業内容

1. 地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究

(1) 地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築

◆ 都道府県（指定都市）が中心となり、大学や特別支援学校、社会福祉法人、地元企業等が参画する障害者の生涯学習のための「地域コンソーシアム」を形成し、支援体制を構築。

(1)都道府県レベルのネットワーク構築 (2)地域レベルの学習機会拡充

(2) 地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進

◆ 市区町村が実績のある民間団体等と組織的に連携し、主に公民館等の社会教育施設における、障害当事者のニーズや地域資源等を踏まえた生涯学習プログラムを開発・実施

(3) 大学・専門学校等における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築

◆ 社会への移行期における知的障害者等を対象とした学びのモデルを大学・専門学校等が開発・実施

2. 生涯学習を通じた共生社会の実現に関する調査研究

- H29 基礎データ（都道府県、市町村、特別支援学校）
- H30 基礎データ（障害者本人、公民館・生涯学習センター）
- R元 社会教育施設の合理的配慮
- R2 大学等の生涯学習プログラム
- R3 重度重複障害児・者のまナビ

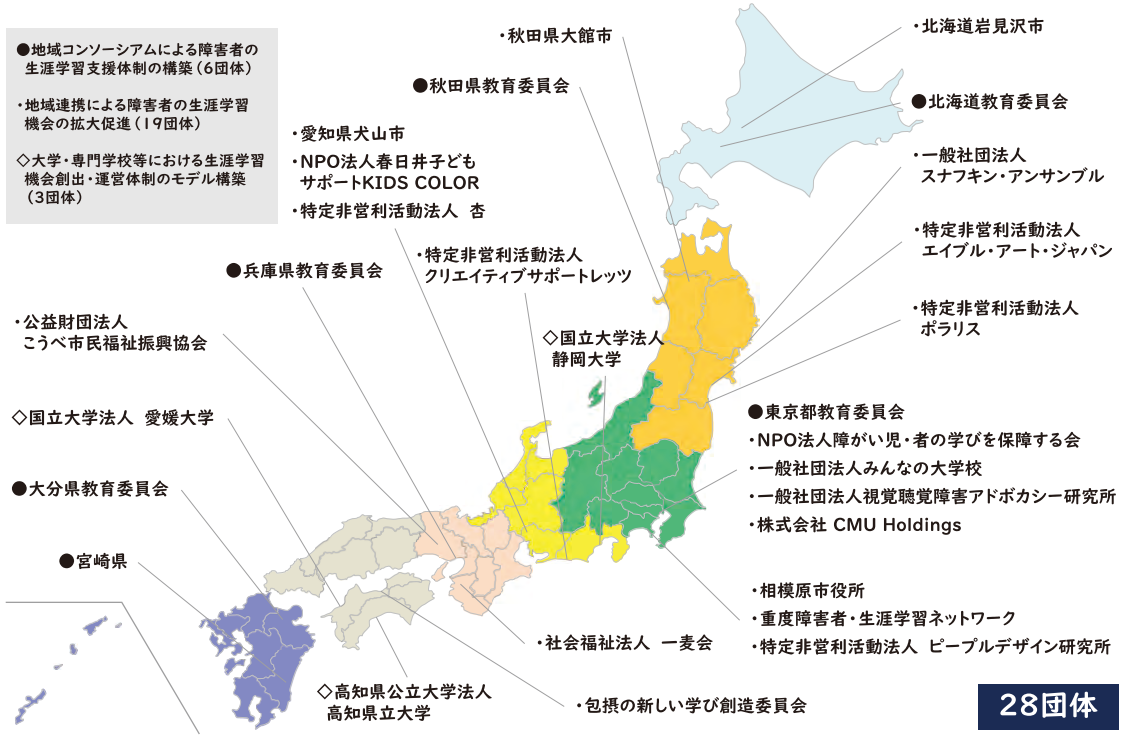
成果や課題を共有

3. 障害者の生涯学習に関する連絡会議の開催、普及・啓発や人材育成に向けた取組

- ◆ 有識者を含めた連絡会議
- ◆ ブロック別コンファレンス（実践研究集会）
- ◆ 障害理解啓発フォーラム

◎各地域で障害者の社会参加と活躍を推進 ◎地域における支援人材の増加と障害への理解を促進

令和4年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」

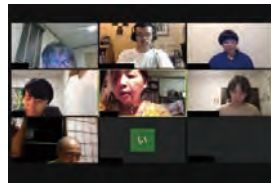


学習プログラムの一例

生活のための学び／知識習得のための学び／体験活動



夕刻のたまり場
(社会福祉法人一麦会)



オンライン読書会
(NPO法人エイブル・アート・ジャパン)



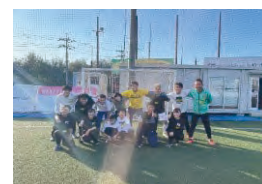
動画づくり
(NPO法人ボラリス)



部活動で仲間づくり
(こうべ市民福祉振興協会)



大学生と共に学ぶ
(相模原市)



サッカー講座
(春日井子どもサポートKIDS COLOR)



音楽で遊ぼう
(秋田県大館市)



アートアカデミー
(北海道岩見沢市)



おしゃべりサロン
(天理大学)

障害者の生涯学習を支える地域と大学との連携

伊藤 佐奈美

(中部大学現代教育学部)

【趣旨】

筆者は、日頃、大学で特別支援学校教諭養成の教職課程で将来教員を目指す学生を育てるという役割を担っている。令和3年度から春日井市における「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」委託事業に参加させていただき、また、私の大学の学生たちも学生ボランティアとして事業に参加させていただく機会を得た。その中で、障害のある方もない方も互いの生き方に触れ、交流することで双方に学びがあり、社会経験が広がるという障害者の生涯学習を支える上で、非常に重要な点を肌で感じる事ができた。学生たち自身もそうした実感を得たようで、そのことは後で示すアンケートの記述からも読み取ることができる。

ここでは、この2年間の「生涯学習プログラムの開発」として実施されたスポーツ講座への学生ボランティアの派遣、今年度の文化講座「KASUGAI アート キャラバン」の企画、運営の経験をもとに、地域と大学との連携のあり方について考えてみたい。

1 実践を通して大学ができる地域との連携について

(1) 支援者を育てるという視点から

障害者の生涯学習を考えるときに重要なのが、生涯学習を支援する立場の者が、支援すると同時にそこから学ぶ姿勢をもち、活動を楽しみ、さらに共に成長しようとする気持ちに至ることができるかどうか、という点にあると考えている。そして、このような交流を経験することで、障害のある方は、今後様々な社会的場面に参加する勇気をもつことができるようになるかも知れないし、こうした取組を継続することで支援者の裾野を広げ、一般の人々の意識を変えていくことにつながるかも知れないと考える。すなわち、一つ一つの活動の積み重ねが共生社会への歩みとなるのではないかと期待するところである。

さて、この事業を通し中部大学（一部名古屋学芸大学の学生を含む）の学生は、2021年度に実施したスポーツ講座（サッカー、バドミントン）及び2022年度に実施した文化講座（アート）、スポーツ講座（サッカー、現段階で2回実施）の計10回の活動に延べ60名が参加した。その参加後のアンケートを中心に、支援者を育てるという視点から検討してみたい。

支援者自身の活動への参加に対する満足度を、「活動に参加して楽しめたか」との問いから把握しようと考えた。「とても楽しんだ」「まあまあ楽しんだ」「あまり楽しめなかった」「楽しめなかった」の4件法で尋ねたところ、「とても楽しんだ」と回答した学生が94.9%、「まあまあ楽しんだ」が5.1%、「あまり楽しめなかった、楽しめなかった」学生はいないという結果であった。この結果から学生たちは、参加者とともに活動を楽しむことができたということが分かる。さらに、次の質問では「参加した障害のある方は楽しんでいましたか」という問いを同様に4件法で尋ねたところ、「とても楽しんでいました」が71.2%、「まあまあ楽しんでいました」が28.8%と回答されており、参加した障害のある